

星ノ下の知らない世界

218S712 コヨンチャン

1. 初めに

人々は、漫画という媒体に何を求めているのか。その答えを探すために、私は新しいジャンルを開拓することに挑戦した。選んだジャンルは、BL（ボーイズラブ）である。それに加え、普段は決して覗く機会のない、孤独死と特殊清掃員の実態について調査した。

今回のレポートでは「読者がBLに求める本質」と「日本の孤独死問題」を作品にどう反映させたのかをふまえ、その上で行った資料調査について論じる。

2. BL読者論

サンキュータツオ先生と春日太一先生の共著書『ボクたちのBL論』では、BL作品を消費している読者論を、男性（腐男子）視点でわかりやすく紐解いている。

本書によると「BL」というものは「第一次原作に男性同士の恋愛が描かれているもの」を表しており、「やおい」は「第一次原作には描かれていないものの、キャラクター同士の恋愛関係を読み込む精神活動や創作活動」を称するものだという。¹すなわち「BL」は一つのジャンルであり、「やおい」は読者たちの楽しみ方の一つとして定義されているのだ。

これを理解したうえで、今回の作品づくりに最も頭を悩ませたのは、「自分の出す料理にBL、またはやおいの要素をどう馴染ませるか」だった。特に私の場合は、商業BL作家を目指す立場ではないが故に、自分の作風を守りながらこれらの要素をいかに取り入れるかが難関だったように思う。

2-1. 良いドラマの産物

ジャンルを理解するために、世間的に評価の高いBL漫画を実際に読んでみた。するとそこには男同士という問題以前に、仮にこれがBL漫画ではなかったとしても、思わず恋愛として解釈したくなるような人間関係が描写されていた。たとえばトウテムポール先生の『東京心中シリーズ』では、仕事に対する向き合い方から成る人間模様を濃密に描いているし、手塚治虫先生の『MW』は、人間の狂気と歪みの中から生まれる様々な感情の波を表現している。これを通じて私は、「BL的關係性はいいドラマを作っていく作業の結果にすぎない」²という春日太一先生の理論の本質を捉えた。

2-2. 余白と補完

よって今回の作品づくりにおいては、やおいやBLの要素を考慮する以上に、良い人間ドラマを作りあげることが最優先とした。そのうえで、自分の漫画の中で新たに意識し始めた概念のひとつが、「余白と補完」である。この概念は『ボクたちのBL論』内でサンキュータツオ先生が論じたものである。タツオ先生は、余白と補完に関して次のように述べている。

「このBLとかやおいといわれているものの根本にあるものってというのは、『余白と補完』なんだと思うんですよね。これは本当に『わびさび』とかを愛するすごく日本人的な発想だなとも思うんです。たとえば今まで語ってきたように、二つのものとそれに関して分かってる限られた情報の中から——たとえば表情一つ変わったところに——何があったのかを、つまり、まず余白を見つけますよね。で、それに対して自分なりの解釈で補完をするんですよね。その作業のおもしろさなんですよ。第一次原作自体がそういう関係であるBLっていうものは、余白はないけれども補完の楽しさみたいなものを教えてくれるんですよね。あるいは、答え合わせの楽しさがある。」³

私はこの概念を自分なりに咀嚼して、演出やモノログなどの面で新しい試みを行った。



※『ワンルーム』7 p 目



※『ワンルーム』15 p 目

3. 日本の孤独死問題

今回の作品に「孤独死」を素材として選んだ理由は、現実にもありながらも触れる機会のなかった世界を描きたかったからだ。死は生きているかぎり必ず訪れるのにも関わらず、私たちは普段それを忘れて生きている。

孤独死もまた同じく、ニュースや新聞で時たま触れられるだけで、その現状については一般的にあまり知られていない。しかし、孤独死に関する調査を行ったうえで最も衝撃を受けたのは「孤独死が老人だけではなく、若い世代にも十分に起こりえる」という事実だった。年齢を問わず、単身世帯が次第に増え続けている現状に比例し、今日も当たり前のように孤独死人口は増え続けている。よって、「このような社会問題のなかで生まれる人間ドラマの構成をどう扱うか」が今回の重要な課題だった。

表2-00-118 年齢階級(5歳階級), 性・世帯分類別異状死数(自宅死亡), 東京都特別区, 平成30年 (単位 人)

年 齢	総 数	男 性			女 性		
		単身世帯	複数世帯	小 計	単身世帯	複数世帯	小 計
総 数	8,348	3,845	1,611	5,456	1,668	1,224	2,892
15歳未満	16	-	12	12	-	4	4
15～19歳	15	2	5	7	1	7	8
20～24歳	62	26	17	43	13	6	19
25～29歳	89	40	17	57	18	14	32
30～34歳	94	36	28	64	16	14	30
35～39歳	124	59	33	92	17	15	32
40～44歳	183	91	37	128	33	22	55
45～49歳	274	141	70	211	36	27	63
50～54歳	415	241	85	326	45	44	89
55～59歳	510	304	92	396	64	50	114
60～64歳	613	387	106	493	76	44	120
65～69歳	961	662	131	793	102	66	168
70～74歳	1,115	651	186	837	164	114	278
75～79歳	1,152	547	213	760	228	164	392
80～84歳	1,259	385	255	640	371	248	619
85歳以上	1,466	273	324	597	484	385	869
(再掲)							
0～14歳	16	-	12	12	-	4	4
15～64歳	2,379	1,327	490	1,817	319	243	562
65歳以上	5,953	2,518	1,109	3,627	1,349	977	2,326
15歳以上	8,332	3,845	1,599	5,444	1,668	1,220	2,888

※東京都監察医務院で取り扱った自宅住居で亡くなった単身世帯の者の統計 (平成30年)

3-1. 特殊清掃員の業務

特殊清掃員という職業は、孤独死に直接的に関与する。

業務内容は以下のようなものだった。

1. 始めに空間安定化作業を行う。



※特殊洗剤を消臭機に入れる作業



2. 室内のものを仕分けする。



※断水された結果、ペットボトルに溜められた尿

3. 貴重品、遺品は別途に確認し、遺族に伝達する。



4. 体液で汚染されてる箇所を掃除。



※遺体に腐食された畳はラップで密封

※ハエによって付着した体液を清掃している

5. 再び空間安定化作業を行い、オゾン消臭機で消臭を行う



4. 結論

今回の課題では、舞台設定として孤独死の現状を調査しつつ、BLというジャンルに対する読者論を分析した。その結果、「自分から遠い世界のことを知りたがる」読者ニーズの本質に気付くことができた。たとえば今回調査したもののように、自分から最も離れた立場である同性同士の恋愛や、普段の日常ではなかなか覗くことのできない職業の実態など、その世界は多岐にわたる。

今回の経験を通じて、作家としての未熟さを再確認したと同時に、自分の作風から読者の需要を引き付けることを意識したいと思った。

【参考文献】

1. サンキュータツオ、春日太一(2018)、『ボクたちのBL論』河出文庫、第一章:男が語るBLはなんぞや！
2. 『ボクたちのBL論』、第五章:男が妄想に挑戦する
3. 『ボクたちのBL論』、第六章:男はBLに評論されている
4. 吉田太一(2010)、『孤立死 あなたは大丈夫ですか』扶桑社
5. 東京都監察医務院で取り扱った自宅住居で亡くなった単身世帯の者の統計（平成30年）
<https://bit.ly/2RuiRF9>（短縮URL）

【参考動画】

1. 「孤独死～特殊清掃の現場へ～」
<https://youtu.be/-wqjK-sYh4Q>
2. 「【特殊清掃】夏場の孤独死現場はこうして綺麗になります」
https://youtu.be/B2zX26oP_-Q
3. 「特殊清掃チャンネル【二代目すーさんTV】」
<https://www.youtube.com/channel/UCpy7KGyObK0mLzArY8-BveA>